

1. 学校の教育目標

介護福祉士、作業療法士、言語聴覚士として医療・福祉の分野で活躍し社会に貢献する人材を育成することを使命とし、その実現のため今年度は、「言葉に出す」ことを行動指針とします。
言葉に出すことで自分の考えを確かなものにし、言葉に出し合うことで新たな価値を創造し、言葉で伝えることで地域社会に貢献する学校を目指します。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 具体的な行動目標
- ・先取の精神で教育活動に取り組み、教育内容の質を向上を目指す。
 - ・本校の取り組みを高等学校や地域社会に積極的に発信する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) . 教育理念・目標 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④3 2 1	・理念・目的・育成人材像は学生便覧、パンフレット、ホームページに記載し、学生に対してオリエンテーションや授業等で周知している。 ・保護者、来賓出席のもと、入学式卒業式を開催した。また、入学式後の保護者説明会も開催し本校の教育目標及び方針について説明することができた。 ・12月に保護者会を開催することができた。 ・学生及び保護者に対して随時個別面談を行っている。 ・引き続き、保護者に対し本校の理念・教育目標について発信できる機会を作り、共に学生を育成していけるような取り組みを継続していく。
・学校における職業教育の特色は何か	④3 2 1	
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④3 2 1	
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	④3 2 1	
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	④3 2 1	

(2) . 学校運営

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④3 2 1	・毎年、法人として事業計画を立てて、それに沿って運営している。諸規定により、意思決定機能が明確化されている。 ・業界とは教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会及び各業界団体への参加により、よりよい活動を目指している。 ・学校評価については、2020年度に学則に記載した。 ・教育活動等の情報公開は、ホームページ、パンフレット、サンビ便りを通して行っている。 ・学校概要、前年度自己評価・学校評価をホームページ上で公表している。 ・学校単位、各学科単位でのインスタグラムを運営し、学校の日頃の取り組みを学校内外に伝える取り組みを行っている。 ・教務事務支援システム・学生情報共有システムを活用している。全教職員が機能を十分に活用できる状態を目指して取り組んでいる。 ・実務者研修においてはITツールを用いた業務効率化を進めている。 ・教務事務支援ツール等については、随時運用方法やシステムの見直しや改善に努めているが、多くの機能を全教職員が活用できるまでには至っていない。また、運用開始から2年経過しており、システムのアップデートについて検討していく。 ・各部署からの意見を取りまとめ、DX化による業務効率化と質の高い教育の実施を推し進める。DX検討グループを中心に定期的な検討会を開催し、システム及び運用ルールの改善に努める。またシステムの機能や活用方法については、教職員会議などを利用し、必要な機能が必要な教職員に伝わって活用されるよう取り組んでいく。 ・引き続き電子黒板・スマートグラス・3D教材の活用等による教育の充実化を図る。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④3 2 1	
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	④3 2 1	
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	④3 2 1	
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④3 2 1	
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④3 2 1	
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④3 2 1	
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4③2 1	

(3).教育活動

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④3 2 1	・教育内容、到達レベルについては学生便覧pp.6-9、およびシラバスにより明確にしている。また、学年の特性を踏まえ、授業時間の追加、補講等を実施し、到達目標レベルまで、引き上げるよう工夫している。また見直しなどは教職員の振り返りや学生面談のみならず学生アンケートを実施し、学生のニーズをも取り入れ実施している。教育課程編成委員会で説明し、外部委員からの意見も参考にしている。
・教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④3 2 1	・リハビリセンター白鳥の利用者評価・リハビリを定期的に行い、その経験を学生への実践教育に活用することができた。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④3 2 1	・国語力に課題のある学生に対し、すべての学科において個別で評価し、その対応を行っている。2025年度入学生からは全学科共通で国語に関する入学前教育を実施した。入学前から各学生の国語力を評価し、入学後の指導に活かすよう取り組んでいる。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④3 2 1	・留学生の日本語教育および本校教員への助言を元中学校長で、在外日本語学校長経験者に依頼している。また、留学生への授業には日本語教師の資格を持つ教員が指導に入り、様々な視点から指導を行えるよう取り組んでいる。
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④3 2 1	・学外及び他学科の教員の協力を得ながら留学生の国語力向上を図っている。留学生の対応について困難がある時は、学科での検討をもとに教職員会議等で情報を共有し学校全体で考え、対応することができた。
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④3 2 1	・各学科で研究授業を行い、他教員が見学し、その後意見交換などを行っている。
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④3 2 1	・授業見学の後の意見交換を行い、シートによる定性的評価を行うなどして評価を行っている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④3 2 1	・作業療法学科、言語聴覚学科の教員が法人内施設にそれぞれ定期的に出向き、臨床に携わることで専門性を高める努力をしている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④3 2 1	・進級・卒業判定については学生便覧p.3学則第16～18条、p.12学則施行細則第2条、第5条～18条により明確にし、成績判定会議（運営会議）にて協議の上、校長が認定する。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④3 2 1	・教員確保については、校長・総学科長を中心に学校全体として実施している。医師担当分野で確保に工夫をしている。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④3 2 1	・教職員が一同に集い、各学科における学生アセスメントや指導に関する共有や検証、新たな指導方法の検討を行う機会を毎月持っている。
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保 するなどマネジメントが行われているか	4③2 1	・オンライン開催の研修会を中心に、様々な外部研修会に参加することができた。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4③2 1	・教職員が多職種連携に関する研修に参加したり、他校の運営についての研修に参加することができた。その成果を教職員会議を中心に伝達する機会をもち、学びの共有を行うことができた。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4③2 1	・学生への個別指導は随時行っているが、場合によっては指導時間が大幅に延長することがある。学生情報共有システムを活用して日頃から情報共有につとめ、効率的な指導を目指す。
		・教職員が臨床現場での経験をもとに、それぞれが授業をより良いものにするために工夫改善に努めている。
		・各学科で行った学生の学習・生活面に関アセスメントや指導に関する検討を行い、その成果や課題などを教職員会議で共有をしている。授業の工夫や学生に対する個別介入など多くの点について共有、検討を行っているが、効果判定についての共有は十分でない状況である。
		・入学前教育で得られた情報と入学後の学習状況を検討し、次年度以降の入学前教育に活用していく。
		・学生の情報収集から指導、効果判定までの一連の流れを整理し、学校全体でより良い指導に取り組める体制を整えていく。

(4).学修成果

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・就職率の向上が図られているか	④3 2 1	・就職率は100%となっている。
・資格取得率の向上が図られているか	4③2 1	・国家試験についてはCW学科では日本人学生は全員合格、OT学科では7名中3名が不合格、ST学科では全員合格となった。
・退学率の低減が図られているか	4③2 1	・入試結果の検討を行い、クラス及び個人への国語基礎力向上への工夫、学生面談、保護者との連携を行い退学率の低下に取り組んでいる。
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④3 2 1	・卒業生の状況を把握してはいる。就労、在宅分野で活躍しているものが多い。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校のエdu育活動の改善に活用されているか。	④3 2 1	・卒業生の活動を、学校教育へのフィードバックとして捉え、整理する必要がある。卒業生の就労状況の把握を行っているものの、完全にはできていない。
		・引き続き卒業生の就労状況の把握に努める。
		・学生が自分の特性と向き合う機会や体験を意図的に3年間の中に設け、それにどう向き合っていくかは飛騨市が導入しているCO-OPアプローチを導入する。
		・活躍する卒業生にオープンキャンパスなどの機会です話をしてもらう。

(5). 学生支援

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④3 2 1	・学籍簿、個人記録、健康記録を整理している。またその情報をITツールによって一元化したシステムを2023年度から稼働した。担任制を敷いているが、あくまでも窓口と考え、学生がいつでもだれにでも相談できるようにしている。 ・信頼できる不動産業者に学生が住みやすい家賃のアパート情報を提供してもらっている。 ・入学式後の保護者懇談会、12月の保護者会・個別面談を開催するなど、保護者への説明や発信の場を設け、より良い連携ができるよう努めている。 ・卒業生への支援体制としてはないが、相談に来ることが多く都度丁寧に対応している。 ・NPO法人と連携して居住支援を行っている。 ・高校などに医療福祉職の紹介や出張講義を行っており、より多くの学生が医療福祉に関心を持つように工夫している。 ・県作業療法士会と連携し、卒業前に職能団体の活動意義について説明する機会を持ち、卒後の生涯学習への意識を高めるように工夫している。 ・学生に関する情報について各記録を備えており、教務事務支援・学生情報共有システムでのデータ一元化を行い、2023年度から稼働した。各種データは徐々に蓄積されてきているものの、その活用方法の周知が不十分である。適切な運用ができるよう進め、蓄積されたデータを活用する方法の検討を迅速に行う。 ・卒業生への支援が不十分だと感じている。ホームページに卒業生用のページを作成することを検討している。SNS等も活用し、より積極的に卒業生を繋がっていく。 ・介護福祉士の魅力を工夫して発信する必要がある。引き続き介護福祉士についての広報、啓発は県や自治体といった行政及び地域を巻き込みながら実施していく。
・学生相談に関する体制は整備されているか	④3 2 1	
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④3 2 1	
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④3 2 1	
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④3 2 1	
・学生の生活環境への支援は行われているか	④3 2 1	
・保護者と適切に連携しているか	④3 2 1	
・卒業生への支援体制はあるか	4③2 1	
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4③2 1	
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④3 2 1	

(6). 教育環境

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4③2 1	・全館Wi-Fiを整備し、学生がいつでも情報を入手でき、授業でも活用できる環境を整えている。 ・教育機器（PC）の計画的な更新を行っている。DX化に合わせ学内PC管理を徹底する。 ・全学科・学年の教室に電子黒板を設置し、授業や学生の自習に活用されている。また、VRによる解剖学学習システムを学生の自学自習に活用できるよう、校内で機器を利用できるスペースを設けている。今後も活用できる場を増やし、学生が自ら学ぶ意欲を高められるよう支援する。 ・11月にライブラリースペースである「川辺の図書館あさぎいろ」をオープンし、学生と教職員が本を介した交流を行うことができる場所を整備した。オープンキャンパスなどのイベントに合わせてあさぎいろの一般開放を行い、地域の方との交流や意見交換などの場にもなるよう取り組んでいく。 ・消火訓練では留学生が消火器使用未体験のため、水を使ったデモ用消火器を使用し消火訓練を実施した。日本での生活を送る上で大切な経験を得る機会を提供できた。また、10月には体育館を利用して防災のためのワークショップを開催し、教職員と学生とが本校の体育館で1泊した。その中で防災グッズの使用体験などを行った。防災ワークショップで有志の教職員と学生が多く学びを得ることができたが、全校への周知が不十分であった。防災意識を高めていけるよう、継続的にワークショップ等を企画していく。 ・防災マニュアルの整備が不十分であるため、整備していく。
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④3 2 1	
・防災に対する体制は整備されているか	4③2 1	

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・学生募集活動は、適正に行われているか	④3 2 1	・学生募集は、誇大表現することなく適正に行っているが、教育成果を伝えきれていない。学納金は、募集要項に記載したもの以外徴収していない。学納金については全国的にみて、最も安い学校に位置しているが、その妥当性を検討し、2024年度より作業療法・言語聴覚学科では教育充実費として年間5万円の徴収を行っている。 ・保護者会と書面にて説明を行い、本校の教育方針・成果それに見合う学納金について一定の理解は得られている。 ・ホームページ、学生便覧などで引き続き学納金の適切な記載を行う。保護者からの問い合わせ等あった場合は丁寧に対応を行っていく。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4③2 1	
・学納金は妥当なものとなっているか	4③2 1	

(8). 財務

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4③2 1	・法人全体では財務基盤は安定しており、現在はその力を借りて運営している。 ・法人として法令に従い財務情報を公開している。 ・学生への資料提供費用の学校負担基準が曖昧であった。 ・教員の教育活動における経費の認識が不十分で経費負担の所在が不明確であったため、教員の経費に関する意識を高めていく。 ・学校全体としての学生充足率は高まりつつあるものの、全学科定員を満たしていない。 ・教職員一人一人が今後数年で損益分岐点の学生数を集められるようさまざまな努力をしていく。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4③2 1	
・財務について会計監査が適正に行われているか	④3 2 1	
・財務情報公開の体制整備はできているか	④3 2 1	

(9) . 法令等の遵守

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④3 2 1	・ 法令を遵守し、適性に運営している。 ・ 個人情報の中でも、成績管理についてはPC上で保存していない。 ・ 自己評価については、専修学校学校評価ガイドラインに沿って実施し、問題点の改善に努めてきた。自己評価結果は学校HP上で公表を行っている。 ・ 教務事務支援・学生情報共有システム活用においては、役職及び担当業務によって権限設定を行っているが、年度ごとに見直す必要がある。また情報の活用ルールについても定めているが、年度ごとに見直す必要がある。学内の状況に応じて随時見直しと周知徹底を実施する。
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③2 1	
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④3 2 1	
・ 自己評価結果を公開しているか	④3 2 1	

(1 0) . 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④3 2 1	・ サンビレッジ岐阜の協力のもとでバスツアーを開催し、高校生を始めとした様々な方々に医療福祉の実際を知っていただくことができた。11月に陽の里まつりを開催した。リハビリセンター白鳥の利用者や地域の方々にも参加していただき、学生の日頃の学びを活かした展示や発表を行うなどの地域貢献を行った。 ・ 12月には車いすツインバスケットの体験会を開催した。 ・ 池田町教育委員会からの要望もあり12月に作業療法学科教員による小学生を対象とした「からだの使い方教室」を開催した。開催後には作業療法士の視点や職業特性について、池田町福祉教育委員会へ作業療法士についての講演会を実施した。 ・ 高校からの要望があり、認知特性セミナーを揖斐高校、池田高校、不破高校、岐阜総合学園高校1年生を対象に授業の一環として実施。自分の効果的な勉強方法やノートまとめの方法を伝えた。 ・ 岐阜県内の特別支援学校の視察を行い、作業療法士、言語聴覚士を派遣してほしいという要請があった。 ・ 今年度も白鳥地区の方から、狂俳の指導していただき、地域との連携をもつことができた。 ・ 5、6月にはキャリアセミナーをサンビレッジ岐阜の協力のもとで開催した。高校生に職業選択の一助となるような体験重視のセミナーを実施することができた。3月にも2回開催ができた。次年度以降も引き続き開催していく。 ・ 作業療法学科教員と法人スタッフとによるドライビングサポートクラブ（どらサポ）を開催した。 ・ 9月27日には岐阜県専修学校専門講師派遣事業として江崎禎英氏を迎え、本校学生・教職員に向けて「これからの未来を支える若者たちへ」をテーマに講演していただいた。 ・ コロナ禍前から実施してきた様々な行事・イベントを開催した。それに加え新たな地域貢献となるイベントを検討し開催することができた。今後も地域の方々へ本校の強みを活かした新たな社会活動を検討し、実行していく。 ・ 作業療法や言語療法の知識・技術を地域に還元する活動を本年度より開始した。しかし、多くのニーズがあり直ぐには答えられない状況である。多くのニーズに直ぐには答えられないが、次年度は小学校教員が児童の特性やニーズに適した支援を行えるように、本校から池田小学校4年生へ作業療法士を派遣する予定である。児童の困りごとを作業療法士の視点から把握し、その情報を小学校教員に提供する。 ・ 特別支援学校へ作業療法士や言語聴覚士を派遣してほしいをいう依頼があり、次年度は大垣特別支援学校へ作業療法士・言語聴覚士をそれぞれ20時間派遣する予定である。
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④3 2 1	・ 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、徐々にボランティア募集が来るようになり、参加を促すことができた。学生も可能な範囲で参加することができた。
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④3 2 1	・ 社会人からの学生に対して離職者等委託訓練実施事業を実施している。 ・ 揖斐川町と連携し、医療・福祉に関心を持つ地域の高校生（揖斐高校生及び池田高校生）のためのワークショップに参画、参加した。 ・ 職業訓練生募集について、ハローワーク及び県事務所への継続的な訪問と併せ、学校全体で検討を行って対応した。 ・ 12月8日には岐阜県介護人材キャリアパス支援事業としてお笑い芸人の安藤なつ氏をお招きし、「介護とわたし～介護ってこんなにおもしろい！～」をテーマに講演会を開催し、150名ほどの参加があった。 ・ モレラ岐阜での子育て応援イベントに、作業療法・言語聴覚学科の教員が法人リハビリスタッフとともに参画した。「親子で実感 いつものあそびがまなびに変わる？わくわく忍者ランド」を開催し、専門領域をもとにしたワークショップを行った。当日はボランティアとして両学科の学生も参加した。

(1 1) . 国際交流

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④3 2 1	・介護福祉学科の2025年度入学予定者は在日入学者13名、海外からの入学生7名、特定技能実習生からの入学生1名を含め21名である。入学を希望した学生の多くは、在校生や卒業生からの紹介、または在校生が出身の日本語学校からの紹介がきっかけとなった。本校から日本語学校の訪問回数を増やし、日本語学校の教員と顔なじみになったことで、留学生の現状を知る機会を意図的に増やしている。 ・日本語学校を訪問することで現状は分かるが、すでに進学先を決めている留学生が多く、本校入学に繋がらないこともあった。毎年留学生を取り巻く状況は変わるのので、留学生に関する情報を常にキャッチし、臨機応変に広報活動を準備をする必要がある。 ・今年度は、奨学金提供施設向けに学校見学会を開催した。施設側は、留学生が学ぶ姿を見ることで、卒業後の育成イメージを具体化することができた。留学生にとっては、卒業後の就職先に対する不安が解消される機会となった。また、奨学金提供施設に奨学生の介護実習を依頼することで、施設側は学生の状態を就職前に直接把握し、育成計画に反映させることができたようである。学生も施設の雰囲気を知ること、就職先での仕事や生活をより具体的にイメージできた。 ・留学生の生活支援・学習支援について、その必要な支援の内容と量を明確にし、それぞれについて達成目標と方法、期日を教職員で共有することによって着実な業務遂行に努める。
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	④3 2 1	・2025年度入学予定の学年（2024年度日本語学校最終学年）は2024年度に比べ4割程となるため海外からの入学生確保対策を実施した。 ・在籍管理についてはITツールの他学生記載の個票を用い確実に実施している。 ・2023年度入学した14名の留学生が全員卒業した。 ・留学生への納税の義務をはじめとする日本のルールの指導にはまだまだ、多くの指導が必要であった。 ・入学後の生活の安定化のためにコープの学生総合共済（個人賠償責任保険追加加入）への留学生全員の加入を推し進めた。
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④3 2 1	・学生総合共済へ共済金の口座引き落としができない留学生が多く、口座管理指導に多くの労力を要した。口座引き落としができなかった留学生に対して、生活費の管理方法の指導をお金の管理という視点だけでなく、母国との違いを考えさせながら実施をした。 ・1月21日留学生対象に交通安全講習を行った。2024度自転車事故1件。雪道での転倒がある。軽傷であったが、コープ学生総合共済に加入していたため、保険対応ができた。 ・介護2年留学生に対する国家試験対策を年間を通し実施。しかしながら、日本語基礎力に課題のある学生もいたため、指導に苦慮した。 ・留学生に対し日本語基礎力の重要性を早期に認識させるための対策をとる必要があり、随時検討し実施していく。 ・本校に入学してから実施している日本語能力試験（模試）のN4の得点と国家試験模試結果に相関がみられた。 ・国試再受験となる既卒生に対し、11月から1月にかけて週1回学校にて国家試験対策を行った。 ・働きながら学ぶ既卒性が、国家試験合格に対する意識を継続して持ち続けることが難しい。今後は国試に対する既卒性のモチベーション向上のため、学校と就職先の施設間で協力体制を作っていく。
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	該当せず	